

ARTS for HOPE

宮城チーム活動報告書 2015年2月25日



宮城・岡田児童館「もようをみつける」

今年度、岡田児童館での最後のワークショップは、幾何学模様の線がプリントされた紙を見て、自分なりの模様を見つけてそこに色鉛筆やマジックペンなどで色を塗ってゆくワークショップです。

小学校低学年の参加者が多かったこともあり、寡黙に集中した時間を過ごすというよりは、ちょっと真剣に向き合い過ぎて、お疲れモードになった子どもたちもみられた今回。でも、大人たちが、キルトのもようのような、繰り返しのパターンの形を見つけて色を塗るのは、また違った世界が広がったことは、うれしい限りでした。

星のかたち、六角形や八角形などを塗りつぶすのは、まだまだ初歩段階。

もようのなかに丸い形を見いだした女の子は、「丸くてもようがついているものってなにがあるっけ？」と、みんなに声



をかけ、『てんとう虫』『スイカ』『メロン』など、たくさん絵を描いた動物のかたちや、ひとの姿をそこにみつけて塗っていく子どもたちもいました。

黒いベールに包まれたの顔を描いた女の子に、「この人だあれ？」と尋ねたら、「イスラム国の人」という答え。こんなに小さな子どもたちにも、ニュースから入ってくる情報が、生々しく、すぐに反映されていることに、辛くも驚かされてしまいます。小さい画面ではあるのですが、根気のいる今回の作品作り。コツコツと色を塗っている子どもたちの作品が『完成』となったものは少なく、時間内に遊戯室で終わらなかった子は、児童館の色鉛筆を借り、別な部屋で続きを塗る。そんな放課後の時間となったのでした。

